



中華人民共和国

派遣期間 2014年3月～2017年3月

蘇州日本人学校 実践報告

～ 日 中 友 好 の 架 け 橋 ～

和寒町立和寒中学校

教 頭 中間 靖之

1 中華人民共和国について

中華人民共和国（以下、中国）は、国民党を破った中国共産党により1949年10月1日に建国されました。人口は約13億5千万人、国土面積は日本の約25倍です。歴史は古く、世界四大文明の一つである黄河文明時代があり、「中国四千年の歴史」というフレーズでその奥深さが注目されています。国旗は、赤地に黄色い5つの星があり、五星紅旗（ごせいこうき）と呼ばれます。赤地は革命を、黄色は光明を表し、大きい星は中国共産党の指導力を、4つの小さい星は労働者・農民・小資産階級・愛国的資本家・知識人の4つの階級を表しているそうです。全ての小さい星の頂点は、大きい星の中心に向いており、人民が一つの中心（共産党）の下に団結することを象徴しているそうです。

日本とは隣国ということで、昔から関係が深く、現代においても日中関係は毎日のようにテレビや新聞等で報道されています。中国と日本は、過去に歴史的な経緯（戦争など）があり、近年では2012年9月に起きた尖閣諸島（中国では魚釣島）を巡っての反日デモは記憶に新しいところです。また、思想的な事柄や性的な事柄はインターネットなど裏側ではかなりオープンになってきてはいますが、依然厳しい統制下にあります。

近年の経済成長はめざましく、GDP換算では、アメリカに次ぎ世界第2位の発展を遂げています。と同時に大気汚染などの問題が大きくなっています。自動車メーカーや電機産業などを中心に多くの日系企業が進出しています。東京ー上海間の飛行時間が3～4時間（福岡・関西・名古屋ー上海1～3時間）、時差1時間なので、多くの駐在員は日本にいて出張するのと同じような感覚の方が多そうです。

2 蘇州日本人学校の特徴

(1) 学校概要

- ①開校期日 : 平成17年4月14日
- ②開校地 : 蘇州高新区金山路83号（平成24年10月移転）
- ③移転後 : 蘇州高新区淮海街79号
- ④運営主体 : 蘇州日商倶楽部
- ⑤学校形態 : 全日制日本人学校（小学部・中学部）
- ⑥教職員組織 :
 - (1) 教職員 合計30名（平成28年4月現在）
 - (2) 事務員 6名、中国人スタッフ5名
- ⑦クラス編制 :（平成28年4月現在）

小学部 各2学級 計12学級、中学部 各1学級 計 3学級 合計15学級

- ⑧校 舎 : 蘇州市高新区管理委員会が建造する校舎や附属設備を賃借する。

(2) 特色ある環境整備

①大気汚染対策

空気汚染物質であるPM_{2.5}（微小粒子状物質）の影響は大変大きく、中国内の日本人学校の児童生徒数減を招いています。そのため、各日本人学校では、1時間ごとに空気質量をチェックし、基準値より高い場合は屋外活動を制限等の対応をしていました。本校では、教室をはじめ廊下・体育館に計84台の空気清浄機を設置し、校内環境を整備していました。



【学校全景（人工芝全天候型トラック）】



【大型空気清浄機（廊下・体育館）】



【小型空気清浄機（教室等）】

②感染症対策

鳥インフルエンザをはじめとする感染症対策としては、飲水機や消毒液を各教室の近く等に設置し、うがい・手洗いを励行すると共に、マスク着用（大気汚染対策と兼用）や総領事館等からの流行情報などを敏感に捉え、対応していました。また、鳥の死骸等発見時の対応等注意を図りました。

③治安対策

2012年の反日デモでは、学校の正門をはじめ学校近所の日本料理店や日系デパート等に被害がありました。対策としては、地元政府教育局や公安警察等との良好な関係の構築を築くと共に、24時間体制での学校警備員（16名）の配置、監視カメラ18台、赤外線感知システム11セット等を設置していました。



(3) 特色ある教育活動

①語学教育

中国語と英語（英会話）の学習時間を小1から中3まで配当していました。ネイティブ講師によるコミュニケーション能力育成に重点をおいていました。



②ICT教育

全教室に電子黒板と書画カメラを配置し、電子黒板に映し出された画像を指差しながら発表や書き込みをしたり、書画カメラで拡大して電子黒板に映し出すなど、学習意欲の向上やわかりやすい授業の展開に活用しました。



③現地校交流

校務分掌校内委員会の国際交流委員会を中心にして、小学部1・2年、3・4年、5・6年、中学部のブロックごとに計画をたて、運動や合唱・器楽演奏発表交流やかごなどの制作体験交流を実施しました。このような草の根レベルでの交流が、日中友好の架け橋となると感じました。



④蘇州・中国文化体験

各学年ごとに切り絵や中国武術・中国結びなどの体験活動を行いました。



(4) その他の特色ある活動

①蘇州夏祭り

蘇州日商倶楽部（日系企業商工会）を中心に実行委員会を組織し、毎年7月の第2土曜日16時から20時過ぎまで、日本人学校の校地内で盆踊りやヨーヨー釣り、たこ焼きやかき氷などの出店で盛り上がります。上海総領事館からも領事が来られます。日本を離れて生活している子どもたちは、浴衣を着て友達と楽しめます。日本とは違い、放課後家に帰ってから自由に外へ出ることができない子どもたちは、友達と一緒に思い思いに行動し、楽しめます。保護者の方々も踊りの指導などに前向きに協力してくれます。



②教育講演会等

世界で活躍されている方々から直接お話を伺うことにより、グローバル人材として成長していくことを願い、実施していました。また、教育講演会以外でもたくさんの方々が来校してくれました。



【紙ヒコーキギネス記録保持者】



【ボサノヴァ歌手】



【世界卓球大会帯同選手】



【プロ野球選手】



【宇宙飛行士】



【落語家】



【プロサッカー選手】



【JAXA】

③職員研修

年2回、平日午後から職員研修を実施しました。職員アンケートも採りながら、現地校視察や企業見学を行いました。職員研修とは別日程で、毎年1回、現地理解研修も行いました。



【蘇州市第一初級中学】



【蘇州市第三中学】



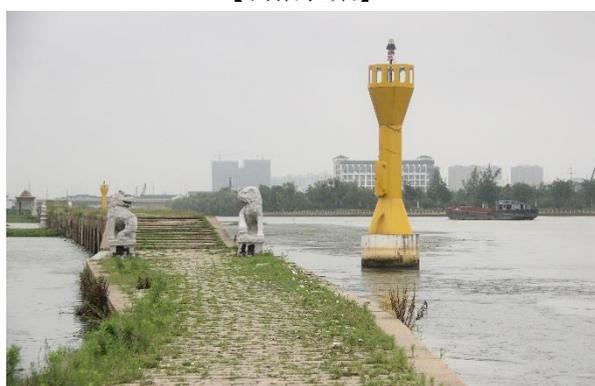
【アース製薬】



【明治乳業】



【旧日本国領事館】



【宝帯橋】



④海外子女教育振興財団のご協力

グローバル人材育成に向けて、公益財団法人 海外子女教育振興財団のご協力を頂き、校内研修の充実を図りました。

⑤日中友好のアサガオ

ある日系企業を通じて日中友好アサガオの種を頂き、小学5年生や小学1年生を中心に栽培していました。7月の夏祭り頃から咲き始め、校舎を彩ってくれています。このアサガオの種は、清朝最後の皇帝溥儀の弟である溥傑の次女から福井市の大安禅寺の住職に引き継がれ、少しずつ増やされてきたそうです。これらの種は戸籍をもち、今も大切に保管されているそうです。



⑥東アジア・大洋州校長会

平成27年10月14日(水)～16日(金)、本校を会場にして、第39回東アジア・大洋州地区日本人学校校長研究協議会及び校長配偶者研修会が開催されました。世界中に日本人学校は89校ありますが、そのうち39校が集まりました。文部科学省や外務省、公益財団法人海外子女教育振興財団、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会からも出席頂きました。閉会式の前に、本校の校歌斉唱を聞いて頂きました。参加者からは、「大好きな日本を離れ、海外で頑張っている子どもたちの姿を見て、我々もしっかり頑張らなければならない。」という感想を頂きました。

また、会議に伴い、文部科学省職員による現地調査もありました。大気汚染をはじめとする様々な不安がある中、子どもたちの健やかな成長のため、そしてその成長を支える教職員の立場に立った温かい対応をして頂きました。



【校歌斉唱を披露する様子】



【参加者集合写真】

⑦無錫日本人補習授業校支援

年2回、文部科学省派遣教員18名全員が分担して支援を行いました。蘇州から車で1時間程にある補習授業校です。様々な課題を抱える中、我々派遣教員の訪問が大変感謝されていました。



⑧創立10周年記念式典

平成9(1997)年4月に、蘇州日本人補習授業校開校(在籍者数7名)、平成17(2005)年4月に、蘇州日本人学校開校(児童生徒数63名)。以来、急速に児童生徒数は増加し、平成25(2013)年4月の463名をピークに、平成29(2017)年3月は333名でした。今後、この規模で推移する予想です。



3 おわりに

紙面等の都合上、以上で実践報告を終わらせていただきます。

グローバル化がますます進展する中で、次代を担う子どもたちがたくましく未来を切り拓いてほしいと願っています。たくさんの方々に大変お世話になりました。感謝申し上げます。